

趣意書

「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会 主催
第三回シンポジウム

テーマ

「たすけあいの社会」を世界にまで広げよう！～地球規模課題を前にして～

ーグローバルリスク、制度、ソーシャルアクティビティを考えるー

開催要旨

2023 年は、関東大震災から 100 年を迎え、当時震災ボランティアを先導した賀川豊彦の活動を振り返り、将来起こりうる災害に備えて、多様な団体が結び直しを図る事業の実行委員会が結成され、3つのシンポジウムが企画されました。

第一回は震災ボランティアについての議論がなされ、第二回は国際的ボランティアを考える機会が催されています。そして第三回シンポジウムにおいては、グローバルリスクについて考える機会を企画しています。

2023 世界経済フォーラムにおける、グローバルリスク上位は、「気候変動緩和策の失敗」、「気候変動への適応の失敗」、「自然災害と極端な異常気象」らが占めており、実際 2023 年夏の我が国における異常気象は「地球沸騰化」であり、さらに世界各地でも甚大な風水害が頻発しています。これら他国の災害を対岸の火事としての看過することはもはや許されない時代を迎えています。国の垣根を越えて結束と対応を急がねばならない喫緊の課題であるといえます。しかし社会における現状は、議論も乏しくまた解決への道筋すら見出せない状況です。ある。そこで本シンポジウムにおいては、これらのグローバルリスクを多くの市民と共有し、そのためのアクションをどうするのかを考える機会とします。

国境を越えて奪い合いや戦争をするのではなく“たすけあい”による社会の輪を世界に広げていくことで、グローバル化した危機の中にあって私たちは未来を切り拓いていくことができるのではないのでしょうか。かつて賀川豊彦は震災ボランティアの開拓から、協同組合等のたすけあいの社会事業を発展させ、戦後は平和のための制度として世界連邦運動を牽引し実践してきました。この賀川精神を受け継ぎ、地球規模課題とその解決のための制度を共に考え、また効果的な風水害等へのアクティビティへ取り組む契機となるよう、多数のご参加者を期待します。

実行委員会一同

第三回シンポジウムプロジェクトチーム一同

主催：関東大震災 100 年事業賀川豊彦とボランティア実行委員会

企画：第三回シンポジウムプロジェクト委員会

後援：世界連邦運動協会 世界連邦日本国会委員会

お問い合わせ：03-3302-2855 office@t-kagawa.or.jp 賀川豊彦記念松沢資料館

HP：https://sinsai100.online

「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会 主催

第三回シンポジウム



「たすけあいの社会」を 世界にまで広げよう！

グローバルリスク、制度、ソーシャルアクティビティを考える

2024年3月30日(土)

12:15 受付 13:00 開演 16:30 終了予定

場所：連合会館 203 号室（東京都千代田区神田駿河台 3-2-11）

12:15	受付開始
13:00	開演 司会 木戸寛孝 世界連邦運動協会理事長 挨拶 大橋光夫 世界連邦運動協会会長 主旨説明 杉浦秀典 事務局
13:15	第一部
13:45	講演Ⅰ 徳川家広 公益財団法人徳川記念財団理事長 講演題：「地球環境問題の解明－江戸時代から学べること、学べないこと」 講演Ⅱ 上村雄彦 横浜市立大学国際教養学部教授 講演題：「世界連邦政府の実現に向けて ーグローバル・タックス、グローバル・ベーシック・インカム、 市民運動の連携の可能性ー」
14:55	休憩
15:10	第二部 対談 ファシリテーター 上村雄彦 ゲスト 柳沢香枝 元駐マラウイ大使、国連開発計画シニアアドバイザー、 国際緊急援助隊事務局長、女性初の国際協力機構理事 谷本真邦 世界連邦運動協会 国際委員長、世界連邦国際本部 顧問 (World Federalist Movement; 国際連合経済社会理事会特殊諮問組織) 世界連邦日本国会委員会 事務次長 (会長・国会議員秘書)
16:10	Q&A (15分)
16:25	司会締め
16:30	終了

ごあいさつ

シンポジウム「“たすけあいの社会”を世界にまで広げよう！」の開催をお慶び申し上げます。

賀川豊彦先生は関東大震災の被災者支援・協同組合運動等を立ち上げ、戦後は「世界連邦運動協会」の前身組織創設の中心となり、助け合いの社会を世界に広げる先駆けとなりました。

関東大震災などの自然災害の際、途上国を含む世界各国から支援がありました。支援は先進国から途上国への一方的なものでなく、世界は1つ、人類は互いに助け合っていくものだということが示されました。

今も世界中に環境破壊や紛争、水や食料の不足で困っている人々がいます。私たちにできることは何か、このシンポジウムがそのヒントを掴む一つのきっかけとなることを祈念して、私からの挨拶と致します。

世界連邦運動協会 会長

大橋 光夫

本日ここに関東大震災 100 年事業「“たすけあいの社会”を世界にまで広げよう！」が開催されるにあたり、御参加の皆様、開催準備にご尽力下さった関係者の皆様に深甚なる敬意を表すとともに、お祝いを申し上げます。

賀川豊彦先生が若者たちを組織し、関東大震災の被災者を支援したことはわが国における本格的・組織的ボランティア活動のさきがけであります。この助け合いの精神を世界に広げることは賀川先生の尽力で創設された私たち世界連邦日本国会委員会の使命であり、皆様とともに努力することを御誓い申し上げます。

この会が実りある成果を収めますことと、ご出席の皆様のご多幸をご祈念申し上げ、御挨拶と致します。

令和6年3月30日

世界連邦日本国会委員会会長

衆議院議員 衛藤征士郎

協同組合の父と称される賀川豊彦が、人生の晩年に取り組み、そして遺言のごとく後世の私たちに宿題として残したものが「世界連邦の実現」です。そのことは本シンポジウムのテーマでもある「たすけあい」による「協同の精神」「和の心」を国境を越えて広げていくことでもあり、そのための道筋を、戦国の世を天下泰平に治めた「徳川による治世」の歴史（過去）から振り返り、また“現在”の「国際連合の組織」をいかに改革していくべきかという二つの切り口を通じて、参加者の皆さまと一緒に、あるべき“未来”の「社会の方向性」について考える機会となれば幸いです。

世界連邦運動協会

理事長 木戸寛孝

登壇者紹介



徳川家広

徳川宗家 19 代当主、
公益財団法人徳川記念財団理事長

1965 年東京に生まれる。慶應義塾大学卒業後、米ミシガン大学 大学院で経済学修士号を取得、国連食糧農業機関 (FAO) ローマ本部とベトナム支部で勤務の後、米コロンビア大学 大学院で政治学修士号を取得。



上村雄彦

横浜市立大学国際教養学部教授

国連や NGO、大学やシンクタンクでの勤務経験から、地球規模課題が人類の生存危機にまで深刻化している事態に気づき、教育、研究、講演、執筆、ネットワーク活動を通じて、現状を変えるチェンジ・メーカーの養成を行っている。特に、グローバル・タックスと世界政府の創設に力を入れている。



大橋光夫

世界連邦運動協会会長

1936 年東京に生まれる。慶應義塾大学卒業後、三井銀行を経て 1961 年 12 月昭和電工株式会社に入社。1997 年 3 月代表取締役社長就任、2005 年 1 月代表取締役会長就任、相談役、最高顧問、名誉相談役を務め、2023 年 1 月より株式会社レゾナック・ホールディングス（昭和電工株式会社から社名変更）名誉相談役。2023 年 3 月世界連邦運動協会第 9 代会長に就任し、現在に至る。



柳沢香枝

元駐マラウイ大使、
国連開発計画シニアアドバイザー、国際緊急援助隊事務局長、女性初の国際協力機構理事

独立行政法人国際協力機構（JICA）で、長年にわたり開発協力に従事。ウズベキスタン事務所長、アフリカ部審議役、国際緊急援助隊事務局長、東・中央アジア部長などを歴任。国連開発計画（UNDP）でもシニアアドバイザーとして勤務。2014（平成 26）年 JICA 理事。2016（平成 28）年から 2019 年（令和元）年まで駐マラウイ特命全権大使。



木戸寛孝

世界連邦運動協会 理事長

1969 年生まれ。慶応大学法学部卒後、(株)電通に入社。電通を退社後、1999 年 10 月から 2003 年 3 月まで千葉県香取市で農業に従事。2003 年 11 月から、国際 NGO 世界連邦運動協会の事務局長として、2002 年オランダ・ハーグに常設された国際刑事裁判所 (ICC) に日本政府が加盟するためのロビー活動において中心的役割を果たす。2022 年 10 月より理事長に就任。明治維新の元勲・木戸孝允の直系 6 代目。



谷本真邦

世界連邦運動協会 国際委員長
世界連邦国際本部 顧問（World Federalist Movement; 国際連合経済社会理事会特殊諮問組織）
世界連邦日本国会委員会 事務次長（会長・国会議員秘書）

国際平和構築協会理事・事務局長、国会有識者諮問機関グローバルガバナンス推進委員会・事務局長なども務め、京都芸術大学客員教授に就任し同大学付置機関・京都国際平和構築協会事務局長。